

# 子育て世代が集い始めたまちなか 都城市保健センター



平成26年度から整備を進めてきたMallmallは、まちなかの歴史や変遷を温めながら、そこに集う人々を優しく包み込んでいます。新しく吹き始めた風の中、今回は、都城市保健センターと子育て世代活動支援センター「ぷれびか」を特集します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

大型商業施設の郊外出店、老舗商業施設の閉鎖など、中心市街地（まちなか）の衰退と、その活性化が市政の課題となる中、まちなかへの若い世代の呼び込みも課題となりました。

市では、女性の行動に着目。子育て中の母親など女性がまちなかに足を運ぶ仕掛けをつくることで、家族や友人もまちなかに集まるようになるのではないかと考えました。

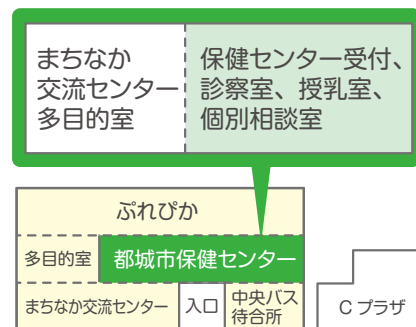
この考えは見事に的中。都城市保健センターでの健診や相談に併せ、子育て世代活動支援センター「ぷれびか」で遊んだり、図書館を利用したりするなど、Mallmall内の複数の施設利用につながっています。

また、親子のみにとどまらず、祖父母も含む3世代で訪れる姿も増えています。そして、魅力の高まったまちなかには、市外からも多くの利用者が訪れています。地域の枠を超え、さまざまな世代が集うことで、「交流」と「にぎわい」が生まれました。

## 健康に寄り添う 都城市保健センター

Mallmallの開館に合わせ、市民健康センターが、市役所地下1階からMallmall（国道10号側）2階に移転。以前の市民健康センターで行

### 都城市保健センター（2階）



ついていた乳幼児の健康教室やパパママ教室、乳幼児健診など、妊娠期から子育て期の親子への支援は、保健センターで行います。人々が集うまちなかで、子育て世代に寄り添った支援を行えるようになりました。

## 快適で落ち着く空間

センターは、窓が多く広々としていて、内装には木材がふんだんにあしらわれ、優しい空間となっています。個別相談室を5部屋設置して、プライバシーに配慮。相談室内には、子どもが遊べるスペースを備えていて、落ち着いて相談ができます。

そして、中心市街地中核施設附帯駐車場を利用することで、雨の日でも濡れることなく移動することができます。子育て中の家族の利便性を高めています。



## より利用しやすい体制に

毎週木曜日は19時まで、第2日曜日も開館し、仕事を持っている人にも利用しやすくなりました。

さらに、保健師や栄養士、助産師などの専門家が常駐していることで、サポートを必要とする人に寄り添った、切れ目のない支援ができるような体制を整えました。

## 子育てに役立つ講座と教室

年齢別の健診のほか、宮崎県助産師会に委託して、おおむね生後6カ月未満の赤ちゃんとその家族を対象

にした、わらべうたベビーマッサージなどを学べる「赤ちゃん広場」などの教室も開催しています。

これから出産を迎える家族から子育て中の家族まで、子どもの年齢に合わせた講座や教室を行うことで、子育てに役立つ支援を充実させていきます。

## 切れ目のないきめ細かな支援が充実しました

より丁寧な対応が必要な親子に対して、妊娠期から子育て期までの、切れ目のない継続した支援を行うため、次の4つの事業を開始すること

で、保健センターの機能を強化しました。

●母子保健コーディネーターの配置  
妊娠期から子育て期の、母子保健や育児に関するさまざまな悩みなどに対応するため、コーディネーターを配置。コーディネーターは、保健師や助産師、看護師などの資格を持つことで、現在は助産師2人が常駐しています。

●産前・産後サポート事業  
妊産婦が抱える妊娠・出産や子育てに関する悩みについて、助産師などの専門家が支援。悩みと合わせて孤立感などの解消に努めます。

## 産婦健診事業

出産後間もない時期の産婦を対象にした健康診査を、指定の医療機関で実施。母体の身体的機能の回復や授乳状況、精神状態を把握します。

●産後ケア事業  
健診を行うことで、支援が必要な産婦も把握できることから、産後うつ予防や、新生児への虐待防止に努めます。

●産後ケア事業  
退院直後の母子に対して、心身のケアや育児のサポートを行うことで、産後も安心して子育てができるよう支援します。

## インタビュー



都城市保健センター  
母子保健コーディネーター

宮里 慶子さん

## 赤ちゃんとお母さんの相談窓口として、寄り添いながらサポートしています

母子保健コーディネーターとして、母子健康手帳や健診の助成券を交付したり、心配ごとを聞いてアドバイスしたりしています。妊産婦の皆さんの頼れる窓口として親身に話を聞き、必要に応じて地域の母子保健推進員や栄養士につなぐなど、切れ目のない支援を行っています。

また、子育て世代活動支援センター「ぷれぴか」に常駐している子育てコンシェルジュとも連携。私たちに、子育ての不安や悩みなど、気軽に相談してくださいね。



# 子育て世代が集い始めたまちなか 子育て世代活動支援センター「ふれぴか」



## 機能充実！「ふれぴか」

都城市地域子育て支援センター事業は、旧天神保育所（天神町）を活用していましたが、施設が古くなり安全性の確保が難しくなっていました。そして、子育て中の母親などが集う一つのきっかけにしようと、Mallmallの3階に都城市子育て世代活動支援センター（愛称・ふれぴか）として機能移転しました。

「ふれぴか」は、「子育て支援センター」と「遊び場（プレイルームとおひさまテラス）」からなる複合施設。子育て支援センターは、木材の風合いを生かした、優しく温かみのある開放的な空間で、一時預かりのほか、子育てコンシェルジュを配置するなど新たなサービスも充実させました。そして、遊び場では、親子で安心してのびのびと遊ぶことができます。

## より身近で居心地よく

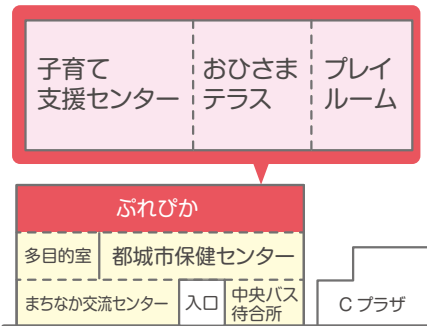
センターの利用対象者は、未就学児とその保護者、妊婦。滑り台やおままごとキッチン、知育玩具など、安全に遊べる遊具と絵本を豊富にそろえていて、親子で交流しながら、自由に楽しく遊ぶことができます。また、センターの職員は、全員が保育士の資格を持っていて、子育てで

気になることや不安なことなど、気軽に相談できます。

## 子育てを通じた つながりの場、学びの場

センターでは、子育てに役立つ講座や年齢に合わせた行事を実施。2歳以上の親子の遊びの広場「いちごクラブ」や、双子以上の親子の集いの広場「ふたごの会」のほか、おやつづくりや救急救命講習を学べる「子育て講座」などを行っています。さらに、センターへなかなか来られない人のために、総合社会福祉センターで1歳以下の親子を対象にした「あかちゃんパーク」を、中郷地区公民館で「子育て広場」を開催しています。市では今後も、「ふれぴか」を中心に子育て支援を充実させていきます。

### ふれぴか（3階）



## 親子に寄り添う 新たなサービス

### ●子育てコンシェルジュ

「ぶれぴか」で新たにスタートしたサービス。子育てに関する相談を受け付けたり、子育て支援事業や保育施設などの利用に当たっての助言をしたりするなどの支援を行っています。

2階の都城市保健センターに常駐している母子保健コーディネーターや、地域の子育て支援機関とも連携しながら、子育て中の家族に寄り添った支援を心掛けています。

子育ての悩みや各種子育てサービスの利用方法など、子育てコンシェルジュに気軽に相談ください。

### ●一時預かり ※要予約

市内に在住する、生後3カ月以上の未就学児の一時預かりサービスも、「ぶれぴか」のオープンに合わせてスタート。保護者の就労や病気、私用など、一時的な保育が必要な子どもを預かります。

### 1時間当たりの利用料金

3歳未満 500円  
3歳以上 400円

●わくわく体感！みんなの「遊び場」  
「プレイルーム」では、走ったり、

登ったり、回ったりするなど、体を思い切り動かせる遊びを親子で楽しむことができます。

また、「おひさまテラス」では、人工芝を敷いたオープンテラスに砂場と大型木製遊具を配置。太陽の下で、のびのびと遊ぶことができます。そして、おひさまテラスのウッドデッキでは、飲食が可能。家族や友人と昼食を楽しんだり、子どもの遊ぶ様子を見守ったりするなど、思い思いに過ごすことができます。

### 「遊び場」の利用対象

おおむね小学3年生までの親子



## インタビュー



ぶれぴか  
子育てコンシェルジュ

宇都 浩美さん

### 頼れる相談役として、子育て中の家族に寄り添います

保育士の経験を生かし、子育てに不安のある保護者からの相談を受け付けたり、専門の機関を紹介したりしながら、子育てコンシェルジュとして活動しています。

育児に関する不安や悩みを私たちに遠慮なく話してもらうことで、気持ちをリフレッシュして、笑顔いっぱいの毎日を過ごしてほしいです。そして、ぶれぴかで、子どもと一緒に遊びながらいろいろな発見をしたり、喜びを味わったりしてくださいね。

## — 利用情報 —

所在地：中町17街区19号 Mallmall (国道10号側)

### 保健センター（2階） ☎36-5661

業務内容：母子健康手帳の交付、乳児健康相談、幼児の健康診査、妊娠・子育てに関する相談や教室など

### ぶれぴか（3階） ☎36-5858

業務内容：各種子育て支援事業、乳幼児の一時預かり、親子で利用できる遊び場の提供